

マンモグラフィポジショニング研修会 報告書

乳房画像部会 代表世話人 西関剛

去る10月20日(土)、京都第二赤十字病の乳房撮影室をお借りして、乳房画像部会によるマンモグラフィポジショニング研修会を開催しました。

この企画は、今年4月に世話人の顔合わせということで集まった際に「会員さんと顔を合わせての活動ができないか」という発想から突然湧き出しました。

乳房撮影装置のデジタル化、特にフラットパネル化が進む中、診断に寄与する画像の出来栄はポジショニングの良し悪しが大きく影響を与えます。ポジショニングについては多くの技師さんが講習会や勉強会で学ばれて習得されていますが、時間が経つにつれ自己流に変化していきがちで、中には「このポジショニングで合ってるのかな?」「どうしたらもっと乳腺の後隙を写し出せるかな?」など、悩んでおられる方も多いかと思います。そこでポジショニングを見直す研修会をおこなうこととし、世話人それぞれの知恵と経験を活かして開催することができました。

赤十字技師会のホームページから募集をかけさせていただきましたが、今回は場所が京都ということもあり近畿ブロックの技師さんを中心にご参加いただきました。しかし遠くは岡山からもお越しいただきました。

当日は14名の方にご参加いただきましたので実習と講義の2班に分け、入れ替わり制で研修会を進めました。講義では乳房の構成から乳がんの発生、乳がん手術の歴史そしてポジショニングの重要性を改めてお話しさせていただきました。実習では、女性講師が中心になり実機を使用したポジショニング講習をおこないました。一般的な講習会ではポジショニング用のベストを使用します。これは非常に良くできていますが、簡単に伸展するので実乳房のポジショニングとはだいぶ乖離があります。そこで我々は受講生の方にブラトップを着用していただき、実乳房でおこなうこととしました。実乳房での講義については後のアンケートで「不安はあったが教えてもらったことが直ぐに実践できた」など好評を得ました。我々男性陣は中の様子をうかがい知ることはできませんが、途中で笑い声が聞こえてくるなど、終始和やかな雰囲気だったようです。

研修会のあとは希望者のみで食事会も開き、他の施設の方々とマンモグラフィ以外のことも語り合ったりして、大変盛り上がりました。

募集の方法に多少分かりづらいことがあったとご指摘いただきましたが、概ね好評を得ることができましたので、我々世話人としてはこれを一つのパッケージとして全国のブロックにお邪魔できればと思っております。施設を利用させていただくことや、地域の技師さんにスタッフとしてお力を少々お借りしなければならないことなどクリアしなければならないハードルは多少ありますが、もし気になる方がおられましたら、世話人までご連絡いただければと思います。

最後になりましたが、施設や設備を快くご提供いただきました京都第二赤十字病院さま、お忙し中にも関わらずお手伝いいただきました京都第二赤十字病院の技師長様やスタッフの方々、そして参加者の皆様に厚くお礼申し上げます。

今後も、乳がんで悲しむ方を一人でも少なくするために、一緒に努力してまいりましょう。

